

府中市総合教育会議会議録

1 開会の日時

平成30年11月21日（水） 教育センター 会議室
（平成30年度第3回） 15時30分 開会

2 出席委員

小野市長、平谷教育長、骨田委員、古川委員、高橋委員、和知委員
（6人）

3 委員以外の出席者

村上副市長 栗根総務部長
石川教育部長 大和総務課長 門田学校教育課長
谷口生涯学習課長 長岡総務課主幹 大川学校教育課主幹
近藤総務課庶務係長

4 協議事項

（1）府中市教育大綱の策定について

5 提案説明

16時20分 終了

総合教育会議

小野市長　それでは、ただいまから平成30年度第3回の府中市総合教育会議を開会させていただきたいと思えます。教育委員の皆さん、大変、お忙しいところお集まりいただき、大変ありがとうございます。

本日は、これまで2回の会議の中で新たな府中市教育大綱策定に向けた意見交換をしまいましたが、最終案として取りまとめましたので、御確認をいただきまして、教育大綱策定といたしたいと思っております。その後、大綱に沿って、教育行政をどのように発展、展開させていくのか、教育委員会事務局から提案がありますので、その内容につきまして、御確認、御承知いただきたいと思えますので、皆さん、よろしくお願ひしたいと思えます。

本日も前回同様、石川教育部長に司会進行をお願いしたいと思えますが、よろしいでしょうか。

それでは、石川教育部長、司会進行、よろしくお願ひします。

石川部長　はい。教育部長の石川でございます。本日もよろしくお願ひいたします。

本日は、今、小野市長が言われたとおり、これまでの意見交換を踏まえまして、府中市の新たな教育大綱案を取りまとめおりますので、御確認いただければと思っております。

それでは、小野市長から提示いただきました、府中市教育大綱案につきまして、初めにその内容について、事務局から簡略に説明させていただきます。

事務局　それでは、案について、説明をいたします。

お手元に赤と黒の2色印刷、府中市教育大綱案というものをお配りしております。そちらを御覧ください。

この赤字のところが前回提案した案から変わったり追加されたりしたところでございます。

この大綱の策定に当たりましては、国の教育振興基本計画や府中市学びプランに沿うものとしておまして、例えば、表現として使用する言葉、「生きる力」といったり、コミュニケーションの大切さなどというのは、国の計画の中に盛り込んでご

ざいますので、基本的には、この大綱の中に包括されているものと考えております。

しかし、前回の会議で、府中市の教育は小中一貫教育とコミュニティ・スクールによる教育の推進によって、全国の先駆けとなっている。だから、そこをもっとアピールしてはどうかという御意見が非常に多く出されました。ですので、前文、この大綱の一番最初のところにあります、全国トップランナーとして挑戦し続けるという教育都市、府中市を掲げまして、大きな柱、一つ目、大綱策定の趣旨にもなりますが、超スマート社会の到来が予想される中であって、地域から世界を舞台に活躍することのできる人材を育てることを推進してまいります。

また、開いていただきますと、全体として、五つの大きな柱を掲げておりますが、それぞれの柱の具体的なイメージをできるような言葉を加えてはどうかという御意見をいただきまして、2番目、生涯学び活躍できる人材の育成や、4番目、教育基盤の整備、そして、5番目、まちづくりへの貢献というところに、赤字の部分を加筆させていただいております。

以上、簡単でございますが、案の説明を終わります。

石川部長 ただいま、新たな府中市教育大綱案につきまして、事務局から説明しましたが、委員の皆様にも最終確認をいただきまして、教育大綱の策定としたいと思っております。委員の皆様には、これまで、2回にわたり、新しい教育大綱について、御意見をいただいております。それらの内容も参考にし、小野市長が案として取りまとめられた、今後約5年間の教育方針となる大綱が府中市の実情に応じ、教育、学術及び文化振興等に関する総合的施策大綱となっており、府中市の発展に資する方針として、御了解いただけますでしょうか。

いかがでしょうか。ごらんいただいてということにはなるんですが。

どうでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員の了解あり。)

石川部長 はい。ありがとうございます。

委員の皆様への御了解をいただいたということで、この案をもって、平成30年12月から新たな府中市教育大綱といたします。なお、策定日は本日11月21日付での策定とし、11月

中に速やかにホームページ等で公表してまいりたいと思っております。なお、誤字でありますとか、言い回しの統一など、大綱の軽微な修正につきましては、事務局のほうに一任させていただければと思っております。また、前回、表紙のデザインを、古川委員のほうにお願いしたという経緯もございます。古川委員のデザインをもって、表紙のデザインとすることにつきまして、御了解いただければと思います。

小野市長
石川部長

よろしく申し上げます。

ありがとうございました。

それでは、続きまして、次第3、今後の教育行政の展開、取り組みにつきまして、府中市教育委員会事務局から、御提案させていただきたいと思っております。大きな方向性や夢や期待というものかもしれませんが、現在、新年度予算編成に向けて作業を進めているところでございますので、各課長のほうから所管分野につきまして、それぞれ御説明をいたします。

総務課長から申し上げます。

大和課長

それでは、総務課のほうから説明させていただきます。

新大綱の項目のうち、総務課の取り組み等について、説明させていただきます。

まず、教育環境の充実についてでございます。学校施設整備関連についての項目について、各学校施設につきましては、昭和40年、あるいは、50年代に建てられた施設の老朽化に伴う環境整備が課題となっております。あわせて、今後の10年、20年間において、改築、改修、維持管理に多額の費用を要する中、中長期的な維持管理にかかるコストの縮減及び予算の平準化を図り、学校施設に求められる機能、性能の維持管理が求められております。平成25年度には、各学校校舎の耐震補強工事を終える中、この間、各施設につきましては、順次優先順位をつける中で改修等に取り組んできたところでございます。今後の大型の施設改修としましては、南小学校プールの改修、第一中学校体育館改修、さらには、栗生小学校のエレベーター設置等が必要となるところでございます。

平成31年度の事業としましては、旭小学校及び第一中学校給食リフトの改修、栗生小学校、南小学校の教室照明機器改修、第一中学校下水道接続工事及び上下南小学校職員用及び多目

的トイレ改修等に取り組む予定といたしております。学校施設につきましては、短期的、あるいは、緊急的な対応として、自然環境、また、生活様式等の変化への対応をもとに、さきにも述べましたが、築40年を超える施設対応について、改修等を含め、中長期的な視点での対応が求められているところでありまして、引き続き、万全な環境整備に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、歴史、文化を生かしたまちづくりの項目についてでございます。国指定につきましては、県内では、安芸国府と備後国府の2カ所のみであります。遺跡として学術的に確定されているのは、ここ備後国府のみということでございます。地域の政治的拠点府中として存在し、近世、石州街道沿いの宿場町から近代以降の産業は発展した内陸工業都市として、現在のものづくりの町、府中に至っているという歴史的原点である遺跡でございます。引き続き、未確定の国庁調査を行うとともに、その成果をもとにした保存及び整備を図り、府中市にしかできないまちづくりの要素として活用を図っていく必要がございます。引き続き、現在進めている史跡整備を行うための用地取得事業、また、今年度策定予定の保存活用計画に沿って、整備、活用を図ってまいります。

また、府中市歴史民俗資料館、旧芦品郡役所庁舎についてでございますが、地域活用に向けて、1回目の検討委員会を10月23日に行ったところでございますが、今後のこの建物につきましては、単なる移築ではなく、まちづくりや町なかのにぎわいづくりの拠点施設、回遊性が図られる施設としての利活用の検討を行ってまいります。さらには、府中市にしかない、こうした歴史的文化財が持っている地域性を大切にす感性が磨かれるような取り組みを図ってまいります。

続きまして、食育を生かしたまちづくりについてでございます。現在、学校給食センターが食育推進の拠点としまして、情報発信や全体をつなぐコーディネーターとなり、学校や地域の食育へつなげるため、栄養教諭、栄養職員が献立を考え、保育所給食メニュー、市民病院レストランメニュー、学校給食メニューや地域での講習メニューへとつなげているところがございます。今後、食育を生かしたまちづくりのためには、府中市

全体としての取り組みがさらに必要となるため、食育にかかわる他の部署の栄養士との日々連携を図る体制づくりが重要だと考えているところでございます。

また、平成22年度から地元産の米と旬の野菜を給食に取り入れ、地元産食材のおいしさや、魅力を伝える給食となるよう取り組んでおります。窓口となる農協、JA様等々、定期的に協議の場を設け、連携を重ねながら、地域、地産地消を進めてきており、多くの府中ブランドの食材を利用した給食が実施できております。あわせて、授業の教材として地場産物の郷土料理の活用、生産者を食育の先生として学校に招く、また、給食の献立表には、地場産物や郷土料理をわかりやすく伝える工夫など、効果的な教材化に向けた取り組みも行っているところでございます。

また、府中ブランドの食材は、現在約50品目程度でございます。トマトや冷凍コマツナや、冷凍コーンと市販の食材に現在頼っておりますが、旬の時期にとれた野菜が加工され、給食の食材として使用できるようになると、さらに、府中ブランドの給食が実施できるところでございます。引き続き、地元地域とつながり、地域の特産物をしっかり食材と生かした取り組み、食育の発信に努める中で、まちづくりにつなげてまいりたいと考えております。

総務課からは以上でございます。

門田課長 はい。では、続けて、学校教育課のほうから説明させていただきます。

この新大綱のもとで、学校教育課として、決意を新たにしているところをお話したいと思っております。

お手元に乳幼児期から高齢期までの府中市教育というものを書いた1枚のペーパーがございますので、これにも目を合わせながら、説明をしたいと思っております。

学校教育において、突き詰めて、重要と考えるのは、子どもの命を守ることと教育課程です。この二つの両者がこの大綱の中には描かれているというふうに理解しております。今回、改正されました、教育大綱のキーコンセプトになる可能性とチャンス、こういった言葉に重ねる形で、まずは、教育課程に焦点を当てて整理してみたいと考えます。

府中市の小中一貫教育、このそもそもの導入の意図は、このような説明ができると思います。9年間のうちにわからなくなってしまいう学習をわかるようにつなげようという、実にシンプルな子どもの側の授業満足度に応じていく教育改革というふうにも捉えることができます。その意味では、教師の努力と教育行政の施策が一致し得る、まことに希有な教育改革であるとも捉えています。だからこそ、一人一人の学びを大切にする授業改善、これを軸にした小中一貫教育研究大会は、現在も継続され、また、教員から支持されてきた理由でもあると考えております。

同じようにコミュニティ・スクールも、この取り組みの根幹には子どもたちが往々にして、こんなことを勉強してて、何の意味があるのかと投げ出しがちになる教室の学びを、社会につながっているんだということを実感させようという意図が込められています。ですから、地域や地元企業などが、コラボする府中市のコミュニティ・スクールは、改めて、コンセプトワードにそろえてみますと、つながる学び、意味ある学び、こういったものが創造できるステージに、もうきているだろうと考えています。それが来年度、全国コミュニティ・スクールの研究大会を府中市で開催するといった運びにつながったと捉えております。

これら、9年間の学びをつなげていくといった小中一貫教育と、こんなことを勉強していることが社会とつながっているということに気づいていくコミュニティ・スクールの取り組みは、非常に今、府中市には勢いがありますので、これまでの、従来の教育課程をはみ出すほどの勢いがあると思います。私は、はみ出すぐらいの内容をつくってほしいと考えています。なぜならば、府中市には、その受け皿があるからです。その受け皿とは教育課程の特例でございます。これが全ての10校で活用できると考えています。

実際、これは最近出た本ですけど、プログラミング教育というのを紹介されてます。この中に出ているのは、ドローンを飛ばすプログラムなんです、これが先進だと。だけど、それを都会でやっていますけど、よその企業を呼んできて、何とかついているというのを先進と言ってます。府中市は、もしプログ

ラミング教育でドローン飛ばすのなら、府中でできます。こういったことを大胆にダイナミックにやっていくということが、教育課程の特例であり、9年間の学びにつなげていく、そして、地域、それから、地元企業とのつながりの中で、これを実現させるということが可能になる。これは、今回の教育大綱の中に描かれていること、可能性とチャンスということでございます。

ですから、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの勢いを教育課程の特例につなげて、府中市の子どもたちに学んでほしい、府中市独自の教育内容、これを創造したい。これを教員たちと一緒にできるというのが強みなんです。トップダウンではなくて、教員たちも授業改善したいと願っていて、大会に参加しています。これをずっとつなげることができるだろうと考えております。

このように府中市教育の特徴を改めて整理しますと、府中市教育のベース、それは、子どもの側、あるいは、学習者の側、子どもが感じている困惑感とか障壁を、できるだけ取り除いてやろうというのが小中一貫教育です。そして、今回の新教育大綱に描かれている可能性とチャンスの最大化につながるものであると捉えています。したがって、このような取り組みは今、義務教育の段階では充実させてきましたけれども、これをさらに、乳幼児期から高等学校、あるいは、生涯教育にまで広げるということは、学習者の可能性やチャンスがさらに、広い空間で広げられることになります。子育て環境としても、子育て世代から見ても、子育ての未来像が見えるという意味での安心感、そして、見通しのよさにつながるものと理解しています。したがって、保幼少との連携、または、小中高の連携、また、地域、地元企業、これらが一貫した理念でつなぎあわせたいと考えております。

これを一言で表現できる英語を一生懸命探しました。ユニファイドという言葉があります。まだ、教育の世界では使ってない言葉なので、ちょっと早目に今、言いたいなと思っております。

さて、学校教育において、突き詰めて重要と考えるものは、子どもの命を守ることと教育課程というふうにお伝えしました。子どもの命を守る、また、安全を確保する、それが未来へ

の希望となり得るという意味においてです。とりわけ、福祉領域との連携において、学校をプラットフォームと位置づけ、さまざまなセーフティーネットの構築、これが今、求められるところでございます。福祉の領域と連携した府中市の実情やニーズに応じたセーフティーネットを整えたいと考えております。取り上げれば、本当に幅広く、セーフティーネットは考えられます。

例えば、特別支援教育のセーフティーネット、生徒指導のセーフティーネット、それから、学校経営のセーフティーネット、また、学校図書館のセーフティーネット、先ほど、ドローンプログラミングと言いましたけども、ICT環境でのセーフティーネットということも必要になるかと思えます。また、そのような子どもに届けていくようなセーフティーネットのみならず、そういうセーフティーネットが構築されることが、府中市で教員をすることが幸せだ、そういう教員を支えることになるだろうと考えています。

そのようなセーフティーネットをつくることによって、府中で育つ誰もが社会の担い手となるチャンスがあるわけです。こういうものをつくっていきたいと考えています。

小中一貫教育とコミュニティ・スクールは、府中市教育にとっては大動脈に当たるだろうと考えます。これに加えて、一人一人の可能性とチャンスを確かなものにする、シナプスのような機能、あるいは、毛細血管のような機能として、セーフティーネットが学校教育にとどまらず、生涯教育の視野から市民に見えるようにしたいと考えております。

以上、学校教育課からは大きく2点の取り組みの方向性について、この大綱から触発される可能性として説明しましたけれども、この新教育大綱、府中市の教育大綱のベースとなっている国の教育振興基本計画。これを俯瞰しますと、人生100年時代の教育観。これはもう既に、かなりの軸足を生涯教育において、その中で学校教育を捉えているという感があります。また、10月に実施された文部科学省の機構改革でも、総合教育局というものが創設され、乳幼児期から高齢期までの一貫した教育に対応する仕組み、これが整えられてきています。

先日、私ども、石川部長と一緒に、文部科学省のこの義務教

育の改革室の担当官に直接、このペーパー、実は見ていただきました。そしたら、文部科学省が考えていることが見事に書かれています。1枚に書かれてあるというふうに評価もいただきましたけども、文部科学省の考えている、これからの教育政策と合致しているという評をいただきました。生涯教育を中軸に据えた文科省の方向性と合致する、ダイナミックな機構改革を府中市の中でも、府中市教育を表現するにふさわしいタイミングにきているかなというふうに考えております。生涯教育の中で、市民が学ぶ姿、学び続ける姿は、府中市教育の日条例がそもそも描いていたものでございます。そのような中、文部科学省とダイレクトにつながれるような機構改革も構想のうちに入れたいと考えております。

学校教育課からは以上でございます。

谷口課長

それでは、生涯学習課のほうから、この大綱に即しまして、大きく分けて2点についての御説明をさせていただきたいと思っております。

まず1点目でございますが、スポーツを生かしたまちづくりというところであります。現在、総合計画はスポーツ推進計画に沿いまして、競技力の向上や生涯学習スポーツの推進を中心にスポーツ振興に取り組んでいるところでございます。取り組みの中で課題も発見できており、今後は、その解決に重点的に取り組んでいく必要があると思っております。

まず、現在においても、スポーツイコール体育というイメージを持った住民の方、また、職員にもまだそういった者が多いのではないかと思います。しかし、近年のスポーツというのは、その概念や役割、機能が変化しておりまして、スポーツという言葉は広い意味を示すものとなり、経済的効果や社会的効果を地域にもたらしているのが現状ではないかというふうに思っております。

また、バブルの崩壊であるとか、さまざまな災害などを経験してきた住民の方々は、もちろん、産業や経済の活性化やインフラの整備というものはあるんですが、それだけではなく、潤いや安らぎのある地域づくりを求めているのではないかと思います。産業や雇用の創出、雇用人口の増加などの経済的効果とあわせまして、地域コミュニティーの形成や地域間や地域内

の交流の促進などの社会的効果を生み出す期待が持てるスポーツは、まちづくりの有効な指標だというふうに捉えております。

具体的な取り組みといたしましては、まず1点目は、スポーツ施設の整備、充実でございます。優先的な課題としては、継続的に検討してまいりました芝生グラウンドと新しい市民プールの整備でございます。芝生グラウンドにつきましては、サッカー、グラウンドゴルフや地域行事など多目的な用途に使用でき、年間を通じての稼働が可能な人工芝を想定しておりますが、単体のグラウンドとしてというのではなく、周囲のスポーツ施設などと連動して、大会や合宿の誘致を行い、多くの選手や関係者や観戦者が施設を訪れることによる交流人口の増加を生み出し、それに伴う近隣の商店街や観光地の活性化につなげ、産業や雇用の創出効果を上げられる施設としたいというふうに考えております。

また、市民プールにつきましては、現行のB & G海洋センターの老朽化が進んでいることもあり、より利便性の高い、中心市街地への整備を検討してまいりました。市民の生涯スポーツの場として、健康づくりや介護予防の拠点として、また、世代を超えた人々が集い交流する場としての役割を果たすことができる市民プールを立地条件等において、幅広い世代の利用しやすい環境にある中心市街地にジムやスタジオなどを併設した多機能な複合施設として整備することにより市民の集いの場となる施設になりますし、また、道の駅などと連動して、中心市街地活性化に貢献できると考えているところでございます。

両施設とも、どういった機能や設備を有し、どの場所に整備するかなどの基本構想を固め、また、民間活力の導入も視野に入れた財源確保の方法を確定いたしまして、新たな教育大綱の期間中には具体的な成果を上げられるように取り組んでいかなければいけないというふうに考えております。

また、東京オリンピックから新たに種目に加わる、BMX、スケートボード、ボルタリング、いわゆる、アーバンスポーツ、都市型スポーツとして、若い世代から支持されているスポーツでございますが、このアーバンスポーツ施設を整備し、例えば、

先ほどのプールへの併設というのものもあるんじゃないかと思いますが、さらに、府中市には自然豊かな環境というのもございますので、これを活用したアウトドアスポーツ施設を整備することで、先ほど、門田が説明しましたように、府中市の教育というのは、今、一つのセールスポイントとして、市外、県外に大きくPRできる内容になっておりますので、こういった教育の充実とあわせて、週末にはアーバンスポーツであるとか、アウトドアスポーツを家族で楽しみ、思いっきりスポーツをさせながら、子どもを伸び伸びと育てられるという新しい府中市の魅力が創造され、定住人口の増加にも貢献できるんじゃないかというふうに、少し大きなテーマになってしまいましたが、そういったことも考えております。

2点目でございますが、新たなスポーツイベントの開催でございます。既に、体育協会が来年度にスポーツイベントを開催される方向で調整しているというふうに伺っておりますが、市もこれに協力し、市民が気軽に参加できるスポーツイベントを立ち上げていくことが必要であろうかと思っております。スポーツ大会やスポーツイベントの開催は交流人口が増加するために経済効果を生み出しますし、また、府中市の情報発信も期待できるということがございますので、例えば、観光とマッチングした、新たなマラソン大会の実施でございますとか、先ほども少し話に出ましたが、産業のPRとか雇用の創出も期待できる、ドローンのレースでございますとか、今、行われているEVカーレースをさらに拡充していくとかといったことも、広義でのスポーツということに取り組んでいく必要があるのではないかと考えております。

今後のスポーツ推進というのはやはり、スポーツを生かしたまちづくりの推進のため、幅広い役割を持ったスポーツの推進に努めていかなければいけないと思っております。そのためには、現在ございます、府中市のスポーツ推進の指針であるスポーツ推進計画につきましても、スポーツを生かしたまちづくりという視点が、まだまだ欠けた部分があるため、県の動向なども見ながら、計画の一部見直しにも取り組む必要があるのではないかと考えております。

続きまして、大綱の趣旨の中にもありましたが、課題を発見

し解決する力を育むという言葉がございしますが、これまでも、生涯学習課としては、志の教育推進事業等において、府中市の現状と課題をよく知り、自分たちに府中市の将来に何ができるかを考え提言する機会を設けることによりまして、先ほどあったような、みずから課題を発見し解決する力を育てる取り組みを継続してきておるところでございします。

また、この事業については、府中市をよく知ることで、府中市への理解や郷土愛を育むということを目的としておるところでございします。また、平成28年度の第6回府中学びフェスタからは、地元企業による体験ブースというものも設けております。これは府中市には、この府中市から全国、世界に発信している、すばらしい企業がたくさんあるという魅力を知ってもらうことを目的に行っているものでございします。こうした取り組みによりまして、子どものころから、みずから課題を発見し、解決する力を育て、また、府中市の魅力や未来への可能性を知っていただくことにより、将来、府中市にUターンして、府中市で働きたい、府中市の未来に貢献したいという子どもたちを育てていくことを継続して行っていきたいというふうに思っております。

以上でございします。

石川部長 はい。ただいま、各課長から新教育大綱に沿った考え方、あるいは、取り組みの方向性について、提案がございました。

ここで、平谷教育長から、全体のまとめといたしまして、一言お願いしたいと思います。

平谷教育長 あれもできたらいいな、これもできたらいいなと思って、私は聞かせてもらったんですが、全体のまとめということではあるんですが、今、それぞれの課長が言ったことも含めて、少し、お話をさせてもらおうと思います。本当、これからの時代というのは、ここの大綱の趣旨にもありますように、超スマート社会と言われているように、通信技術、人工知能等々の発展によって、今までの考え方、あるいは、行動様式だけにとらわれない、新たな価値というものがどんどん生み出されてくる時代と言われています。現実、少しずつそうなっているんだろうなと思うんですけども、やはり、そういった社会で、生きていく今の子どもたち。これは子どもたちだけではなくて、我々大

人も、もう何年か先にはそういう時代になるんだらうなっていうと、知識、技能の習得という、これまでの教育だけではなくて、もちろん、それも大事なんですけども、それだけではなくて、やはり、この中にも言葉としてあろうかと思うんですが、みずから主体的に考えていく力だとか、あるいは、課題を発見して課題解決に向けて、みんなで協働して取り組む力だとか、こういった力を育てていく教育ということが、子どもも大人も、当然必要であると。このように考えております。

また、一方では、現在、世界と連携とか交流が随分広がってきておりまして、そういった意味ではグローバルな社会に、実際に、もうなりつつあるという状況ですけれども、そういった中で、やはり、自分が生まれ育った府中市にアイデンティティーをしっかりと持って、ふるさと府中を愛しつつ、世界で活躍する人材の育成、こういったことも必要になります。

そういった力とか、人材を育成していくために、現在、これは国もそうですし、広島県もそうですし、当然、府中市でもやっておりますけれども、主体的で対話的な深い学び、言葉で言えば、そういう学びとか、あるいは、課題発見・解決学習ですね。こういったことも学校教育の中で進めているわけなんですけれども、府中市としては、そういった学びが、より充実する手法としての小中一貫教育。ひいては、先ほど、課長からもあったように、保幼小中高の連携とか、まさしく必要なやり方、手法ではなかろうかと思っております。

そこに、地域や、地域にある企業と連携しながら取り組んでいる今のコミュニティ・スクールですね。これも有効かつ必要な手法であると、このようにも捉えております。そういった中で、小中一貫にしても、コミュニティにしても今、現在の府中市の教育は一定程度、全国的にも認められるような評価はいただいていると感じてはおります。しかし、今にとどまっていたはいけない。さらに高みを目指すためには、いろんなことをやっていかなければいけないとは思っておりますけれども、まずは、先ほどあったように、来年度、コミュニティ・スクールの全国規模の研究大会を府中市で開催して、ほかの自治体、あるいは、参加者等からの意見や評価をいただくことで、これまでの我々の取り組みを振り返って、さらなる推進への勢いを

つけたいと、短期的なところでは考えております。

また、小中一貫教育についても、義務教育学校と併設型小中学校に移行して、今2年目を進めておりますけれども、まだまだ取り組みの可能性が広がっている中で、今後、教育課程の特例を生かして、子どもたちの学びが充実できるように進めていく。そういった中で目標としては、これは、この5年内には、できればいいなどは思っておりますけれども、小中一貫教育においても、全国規模の大会を府中市で開催、あるいは、開催してほしいという声が、市内外から自然発生的に出てくるように、ぜひ、つくっていききたいなど。このようなことも考えております。

一方では、子どもだけではなくて、大人ですね。市民、大人についても、社会とか地域のさまざまな変化に対応して、主体的に学んで、生き生きと活動できるような生涯学習の環境づくり、これも一方では、同様に進めていく必要があるなど、このように考えております。

そして、それらの基盤にある教育環境、あるいは、スポーツ、歴史、文化関連の施設等の整備とか充実、こういったことも、継続的、あるいは、効果的に行っていききたいなども考えます。

そして、先ほど、課長の話の中にもあったかと思うんですが、今回、教育大綱に示された取り組みも、より効果的に、あるいは、効率的に進めていくためには、教育委員会事務局のみではなくて、市長部局との連携が当然に必要ですし、これについては、組織の再編等の検討もこれからは必要になってくるんじゃないかと考えております。。これは、教育委員会だけでは考えられないところもありますので。

より府中市の教育が充実するために、あるいは、市が活性化するための必要な改善、あるいは、必要な改革、そこまでをしっかりと視野に入れて教育委員会としても取り組んでいきたい、このように思います。よく、教育による人づくりというのは10年、20年後を考えると、非常に重要なことだということは、多くの皆さんが言われるんですけれども、ただ、教育の成果はすぐには出てこないというところもあって、思いはあっても、現実にはなかなか重要視していただけない分野でもあると感じております。それだけに、府中市の教育委員会が進めて

いる取り組みをしっかりと発信して、市民の方にしっかりと理解をいただかなくてはいけないんじゃないかなと、このようなことも感じております。

また、教育というのは、どちらかといえば、少ない予算で、最大の効果が求められているというようなこともありますけれども、このたび、空調設備の設置が進められているように、必要なことには予算もしっかりとかけていただいて、将来を見据えながらの軽重をつけた取り組みということが重要であろうなど、このようなことも考えております。

今回、新たな教育大綱が示されましたので、重点をしっかりと明確にしなが、大綱にもうたわれております、あの言葉好きなんですけど、全国トップランナー、こういう気概をしっかりと持って挑戦をしていきたいと考えております。以上です。

石川部長

ありがとうございます。

ただいま、教育長のまとめ、あるいは、各課長から新教育大綱の方針に沿った、また、期待する提案があったと思います。ここで委員の皆さんから総括的に何かございましたら、御発言いただければと思います。どうでしょうか、いかがでしょうか。

骨田委員

非常に、夢広がる府中市の教育についての提案で、本当に、これから、すばらしい教育が広がってくるんだなっていう思いがして、すごくうれしくなってくるような御意見、提案だったと思います。特に、子どもたちに対して教育をしていく中で、教育を受ける側の子どもたちが、どうしてこういうのが必要なのかっていうのをきちんと、すどんとわかって受け入れることができるような取り組み。形としては、すごくすばらしいものがあるんだけど、実際に、子どもたちに届けるときに、どうして必要なのかなって、子どもが、あ、こういうことで大事なんだな、こういうことをしてもらっているんだなとか、自分もちゃんとしないといけないなっていうのが、ちゃんとわかって受け入れることができる、そこは、先生と児童生徒とのコミュニケーションや、いろんなものでつながると思うんですけども、そこを大事にさせていただきたいなというふうには思います。

あとは、生涯学習については、やはり、高齢化社会ですので、いろんな施設が整ってはきていると思うんですけども、結構、

旧保育所だったところが、地域の集いの場になっていたりするんですけれども、子どもたちは元気よく2階に上がることができるんですけど、高齢者が、2階に上がることができないから行事に参加できないっていうのをよく聞きますので、そういった対策などを、できれば、やっていけたらいいなというふうに感じます。

石川部長 ありがとうございます。

 どうぞでしょう。

高橋委員 5年後の府中市が非常に楽しみだなという、夢が見れそうな気がするんですけれども、これが本当に実現すれば、5年後には、本当の意味でのトップランナーになれて、全国のモデルケースになるのではないかなと思っております。一つお願いがあるとするれば、先ほど、申された内容に日付を想定していただいて、例えば、1年後とか2年後、3年後にはこういうふうになっていたいとか、そういったところをお願いしたいと思います。それから、もう一つ、こうした文字だけでは、本当に伝わりにくいんですよ。だからいろんなところで、やはり、府中市の教育は、こういうことを目指している、こういうことをやりたい。また、5年後には、こういうふうになっていると想定して、日々、皆さんと力をあわせてやっていきたいというふうなことの御説明をしっかりといただいて、御理解を求めていただく方向にいていただければいいかなというふうに思います。

 この2点が、私の思いです。よろしく申し上げます。

石川部長 どうぞでしょうか。

古川委員 そうですね。まず、現場で職員の方が、重点目標として、こういうものを特にやっていきたいとかいう声が、自分らから出てくるような職員体制というか、そういうのが出てくると、物事がどんどん前向きに進んでいく気がします。テレビにも出る方が、最初企業を立て直すときに、機会っていうんですかね、何かをするというときに、目標を持ちなさいと。いつまでにできますかというようなことで改革をされたということなので、教育を変えるんじゃないしに、自分らで変えていくんだという、そういう職員体制にできれば、発展的な府中市になるということじゃないかなという気がします。

石川部長 ありがとうございます。

和知委員　そうですね。私たち、一市民としては、やっぱり、コミュニティ・スクールの充実が出来そうな気がします。先日、香川に行かせてもらった帰りのバスの中で、皆さん、すごく燃えてらっしゃったというか、研修会を聞いて、自分たち負けてないよって、今度は自分たちのほうから、今度、府中市で全国大会をやるときには、学校の先生たちが発表するんじゃないかって、自分たちが発表したいという意見を言われていました。府中市のこれからの夢を背負っていくのは、先生だけじゃない、自分たちも背負っているんだってという意気込みをすごく感じたので、そういう皆さんの、地域の人たちの力も十分に発揮できるような場所というか、力を生かせる行事とか、いろんなことをやっていくと、ますますよくなるんじゃないかと感じました。これからも、そういうところにも力を入れて、よろしく願いいたします。

石川部長　ありがとうございます。各委員の皆さんから、それぞれ、大綱にかける期待、あるいは、職員に対してもっと主体を持つてというような積極的な御意見をいただきました。ありがとうございました。

最後になりますが、小野市長に本年度3回の総合教育会議を振り返っていただき、また、策定いたしました教育大綱への思い、それらをまとめてお話という形で、いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

小野市長　教育委員の皆さんも、本当に3回にわたりまして、新しい教育大綱の策定にお力をいただき、感謝を申し上げます。皆さんに御協議いただいて、でき上がった、ほやほやの教育大綱、まさに、一番最初に書いてある「可能性」と「チャンス」を生かす教育のまち」ということで、子どもたちが持っている可能性を最大限に発揮できるように、応援していきたいなというふうに思っておるところです。

先ほど、門田課長も言われましたけど、国のほうも今、新しい指導要領の策定、あるいは、新しい教育指針に向けて取り組んでいる中で、府中市の教育が決して間違っていないというか、夢物語ではなく、まさに、トップランナーとして、府中市はこのまま自信を持って取り組んでいけばいいのではないかなと、改めて思ったところではあります。

先般も、高校の先生に言っていただいたのですが、うちの生徒がみんな府中の子だったらよかったのにと。かなりリップサービスも含めてですね、それだけ府中の子が、落ちついて勉強にも取り組んでくれているということをおっしゃっていただいたのだというふうに思っております。そういった点では、将来、本当に5年先、10年先が、子どもたちの育っていく姿、また、活躍してくれている姿が思い浮かべると、大変楽しいものがあるというふうに思っております。先ほどから出ておりますように、課題発見・課題解決について、国も県も、ましてや市も取り組んでおりますし、我々も改めてそういった点についても、自分自身に置きかえて取り組んでいかなきゃいけないというふうに思っています。今後とも、府中市、教育発展のために、皆様には、まだまだお世話になることが多いと思っておりますけれども、よろしく御協力をお願いいたしまして、まとめとさせていただきます。

石川部長 ありがとうございました。

新しい教育大綱の方針に沿って、教育委員会だけではなく、府中市がまさに一丸となって府中市全体として、これからの府中市の教育行政は展開、発展していくものと思っております。本日も会議の進行に御協力いただき、まことにありがとうございました。

これをもちまして、平成30年度第3回府中市総合教育会議を終了いたします。皆様には3回にわたり、まことにありがとうございました。お気をつけてお帰りください。